

# Partition Principle

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2014年12月7日

次の命題を Partition Principle という.

命題 (Partition Principle).  $|x| \leq^* |y|$  ならば  $|x| \leq |y|$  である.

これは「 $\sim$  を集合  $X$  の同値関係とするとき  $|X/\sim| \leq |X|$ 」と同値である. つまり Partition を取ると集合は小さくなるという命題なのである. この命題と選択公理の関係を述べるのがこの PDF の目的である.

定義. 集合  $x$  が idemmultiple  $\iff |x| + |x| = |x|$

命題 (Weak Partition Principle).  $|x| \leq^* |y|$  ならば  $|y| \not\prec |x|$  である.

命題 (Idemmultiple Partition Principle).  $y$  が idemmultiple のとき,  $|x| \leq^* |y|$  ならば  $|x| \leq |y|$  である.

命題 (PP<sup>-</sup>).  $f: y \rightarrow x$  を全射として  $x$  を整列可能,  $y$  を idemmultiple とする. 任意の  $a \in x$  に対して  $f^{-1}(a)$  が Dedekind 無限であるならば  $|x| \leq |y|$  である.

定理. 選択公理  $\implies$  Partition Principle □

定理. Partition Principle  $\implies$  Weak Partition Principle □

定理. Weak Partition Principle  $\implies$  Idemmultiple Partition Principle

証明.  $y$  を idemmultiple で  $|x| \leq^* |y|$  とする.  $|x| + |y| \leq^* |y| + |y| = |y|$  だから Weak Partition Principle により  $|y| \not\prec |x| + |y|$  である. 故に  $|y| = |x| + |y|$  となる. 従って  $|x| \leq |y|$  である. □

定理. Idemmultiple Partition Principle  $\implies$   $PP^-$  □

定理.  $PP^- \iff$  任意の順序数  $\alpha$  に対して  $AC_{\aleph_\alpha}$ .

証明.  $\Leftarrow$  は明らかであるから,  $\Rightarrow$  を示せばよい.

$\alpha$  に関する超限帰納法で示す.  $\{X_\beta\}_{\beta < \omega_\alpha}$  を非空集合の族とする.  $\gamma < \omega_\alpha$  に対して  $C_\gamma := \prod_{\beta < \gamma} X_\beta$  と置く. 帰納法の仮定から  $C_\gamma \neq \emptyset$  である.  $\Gamma$  を Hartogs 関数として,  $\gamma < \omega_\alpha$  に関する超限帰納法で集合  $D_\gamma$  と基数  $\lambda_\gamma$  を

$$\lambda_\gamma := \max \left\{ \left| \Gamma \left( \bigcup_{\delta < \gamma} D_\delta \right) \right|, \sup_{\delta < \gamma} \lambda_\delta^+ \right\}$$

$$D_\gamma := \omega \times C_\gamma \times \lambda_\gamma$$

と定義し,  $D := \bigcup_{\gamma < \omega_\alpha} D_\gamma$ ,  $\lambda := \sup_{\gamma < \omega_\alpha} \lambda_\gamma$  と定める.  $f: D \rightarrow \lambda$  を射影とすればこれは全射で, 任意の  $\mu < \lambda$  に対して  $f^{-1}(\mu)$  は Dedekind 無限である.  $PP^-$  により単射  $g: \lambda \rightarrow D$  が存在する.  $g$  が単射だから, 任意の  $\beta < \omega_\alpha$  に対して, ある  $\beta < \gamma < \omega_\alpha$  と  $\mu < \lambda$  が存在して  $f(\mu) \in \omega \times C_\gamma \times \lambda_\gamma$  となる. 故に  $g$  を使って  $\{X_\beta\}_{\beta < \omega_\alpha}$  の選択関数を構成することができる. □

※ 「任意の順序数  $\alpha$  に対して  $AC_{\aleph_\alpha}$ 」から選択公理は従わないことが知られている. 故に  $PP^-$  は選択公理より真に弱い. 一方 Partition Principle が選択公理と同値かどうかは未解決問題らしい.

定理. 双対 Bernstein の定理  $\implies$  Weak Partition Principle

証明.  $|x| \leq^* |y|$  とする.  $|y| < |x|$  と仮定する.  $|y| \leq^* |x|$  である. 故に双対 Bernstein の定理から  $|x| = |y|$  となり  $|y| < |x|$  に矛盾する. 従って  $|y| \not< |x|$  である. □

系. 双対 Bernstein の定理  $\implies$  任意の順序数  $\alpha$  に対して  $AC_{\aleph_\alpha}$ . □

命題 ( $PP'$ ).  $f: y \rightarrow x$  を全射とする. 任意の  $a \in x$  に対して  $f^{-1}(a)$  が有限または Dedekind 無限であるならば  $|x| \leq |y|$  である.

命題. Partition Principle  $\iff$   $PP'$

証明.  $\implies$  は明らかであるから,  $\Leftarrow$  を示せばよい.

$PP'$  が成り立つとする. 明らかに  $PP^-$  が成り立つ. よって可算選択公理 ( $AC_{\aleph_0}$ ) が成

り立つから、任意の集合は有限または Dedekind 無限である。故に Partition Principle が成り立つ。□

定理.  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$ ,  $\{Y_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  が互いに素な集合族で,  $\lambda \in \Lambda$  に対して  $|X_\lambda| = |Y_\lambda|$  ならば  $\left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda \right| = \left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} Y_\lambda \right|$  である.  $\implies$  Partition Principle

証明. PP' を示せばよい.

$f: y \rightarrow x$  を全射として, 任意の  $a \in x$  に対して  $f^{-1}(a)$  が有限または Dedekind 無限であるとする.  $a \in x$  に対して

$$X_a := f^{-1}(a)$$

$$Y_a := \begin{cases} n & (|X_a| = n \text{ のとき}) \\ X_a \sqcup \{0\} & (X_a \text{ が Dedekind 無限のとき}) \end{cases}$$

と定める. 任意の  $a \in x$  に対して  $|X_a| = |Y_a|$  だから, 仮定により  $\left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda \right| = \left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} Y_\lambda \right|$  である. 任意の  $a \in x$  に対して  $0 \in Y_a$  だから  $|x| \leq \sum_{a \in x} |Y_a| = \left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} Y_\lambda \right| = \left| \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda \right| = |y|$  である. □

## 参考文献

- [1] M. Higashikawa, Partition Principles and Infinite Sums of Cardinal Numbers, Notre Dame Journal of Formal Logic, Vol. 36 (1995), 425–434, <http://projecteuclid.org/euclid.ndjfl/1040149358>